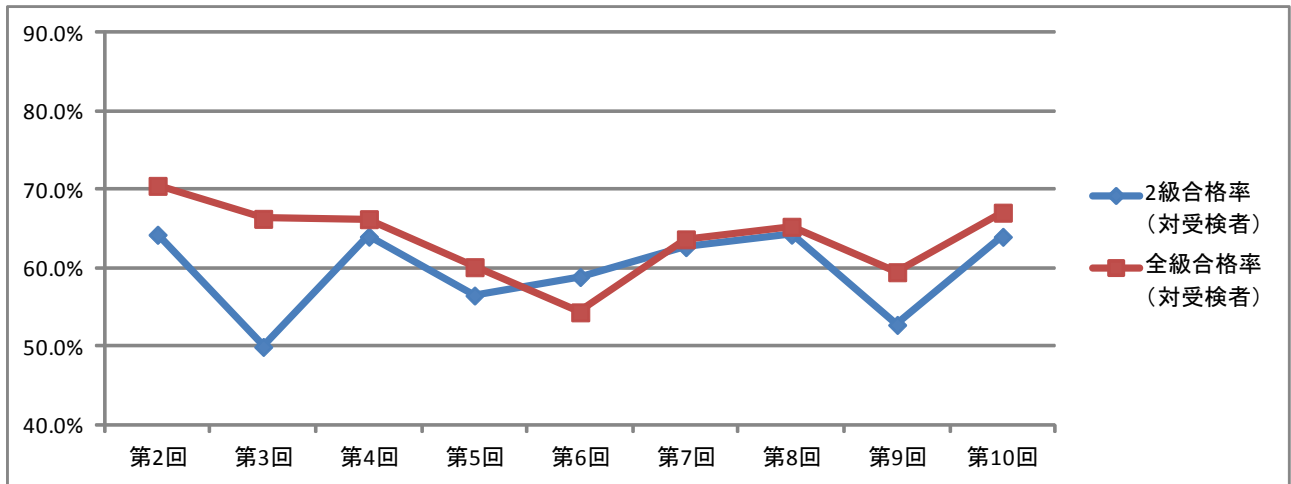


2級

【4】2級の傾向とアドバイス

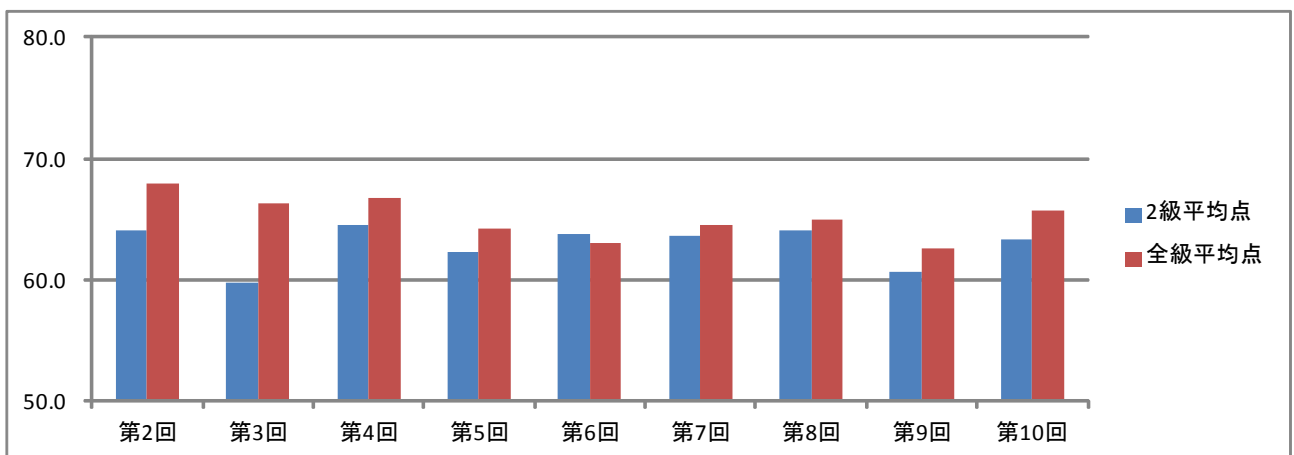
ご存知のとおり、2級はミドル層ともいえる第一線監督者層が主な受検対象者ですが、第一線監督者層のみならず上下の階層である管理者層とグループリーダー層、そして一般層の方も数多く受検しています。そのため、検定回によって合格率のバラつきが大きいのですが、第10回は1級と同様に、第9回 52.8% ⇒ 第10回 64.0%と大きく伸びています。後述するアドバイスを基に、残念な結果に終わった方は、第11回の合格をはかってください。

●2級の合格率<未認定者含む、第1回は1級と2級未実施>



2級	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
申込者数	84	168	322	220	384	275	415	316	474
受検者数	84	164	317	214	382	260	398	307	453
合格者数	54	82	203	121	225	163	256	162	290
合格率 (対受検者)	64.3%	50.0%	64.0%	56.5%	58.9%	62.7%	64.3%	52.8%	64.0%

●2級の平均点<第1回は1級と2級未実施>



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
2級平均点	64.0	59.7	64.5	62.3	63.7	63.6	64.0	60.6	63.3
全級平均点	67.9	66.3	66.8	64.2	63.0	64.5	65.0	62.6	65.7

●2 級の主な出題内容

単位	出題内容(章、節)
<第1単位テキスト> ■役割 (計15節)	●第1章 第一線監督者の役割・機能と能力 ～ 第5章 第一線監督者の1日 ・第一線監督者の役割と機能 ・企業発展の歴史 ・生産性向上の意義、第一線監督者と科学的管理、現場管理の課題 ・職場のなかの人間関係 ・第一線監督者の行動サイクル、第一線監督者のコミュニケーション
<第2単位テキスト> ■コスト (計17節)	●第1章 原価の成り立ち ～ 第4章 改善マネジメントの進め方～設備生産性向上～ ・正しい原価、標準原価管理 ・メソッド面のロス、パフォーマンス面のロス ・労働生産性向上～パフォーマンス改善～、パフォーマンスの標準、パフォーマンスの管理 ・設備生産性向上とは
<第3単位テキスト> ■品質 (計15節)	●第1章 品質管理の概要 ～ 第4章 品質と諸活動 ・品質向上のためのいろいろな活動、品質の「管理」活動 ・製造工程における品質管理、第一線監督者による現場管理 ・品質改善の進め方、品質管理の手法 ・品質と原価、小集団活動による不良低減
<第4単位テキスト> ■納期・生産管理 (計10節)	●第1章 生産管理の概要 ～ 第3章 生産管理の改革 ・生産形態と生産管理システム ・販売計画・受注管理、在庫計画、生産計画 ・生産管理の改革に求められている課題、業務プロセス別の改善手法、生産管理における情報システムの活用
<第4単位テキスト> ■安全・環境 (計6節)	●第4章 職場の安全衛生環境づくり ～ 第5章 環境管理の概要 ・事故・災害の未然防止、リスクアセスメントの実践、ヒューマンエラーの対策 ・環境管理の概要、環境管理とは

①出題の意図

・ 第一線監督者は現場の経営者

第一線監督者は、現場の経営者といえます。そのため、求められる 3 つの機能や日次の行動という「役割」、製造工程の工程能力指数 (Cp 値) や標準原価管理、時系列分析による需要予測、定期発注方式による在庫管理などの「品質」、そして「コスト」と「納期・生産管理」からの計算問題、またリスクアセスメントやヒューマンエラー対策、法規制による安全管理といった、第一線監督者である皆さんが日ごろから普通に考え行動している知識や内容の問題になっています。けっして、むずかしい内容ではありませんので、きちんと理解して、日ごろの業務に結びつけていただきたいと思います。

・第10回は、「品質」、「コスト」、「納期・生産管理」の配点が、高め

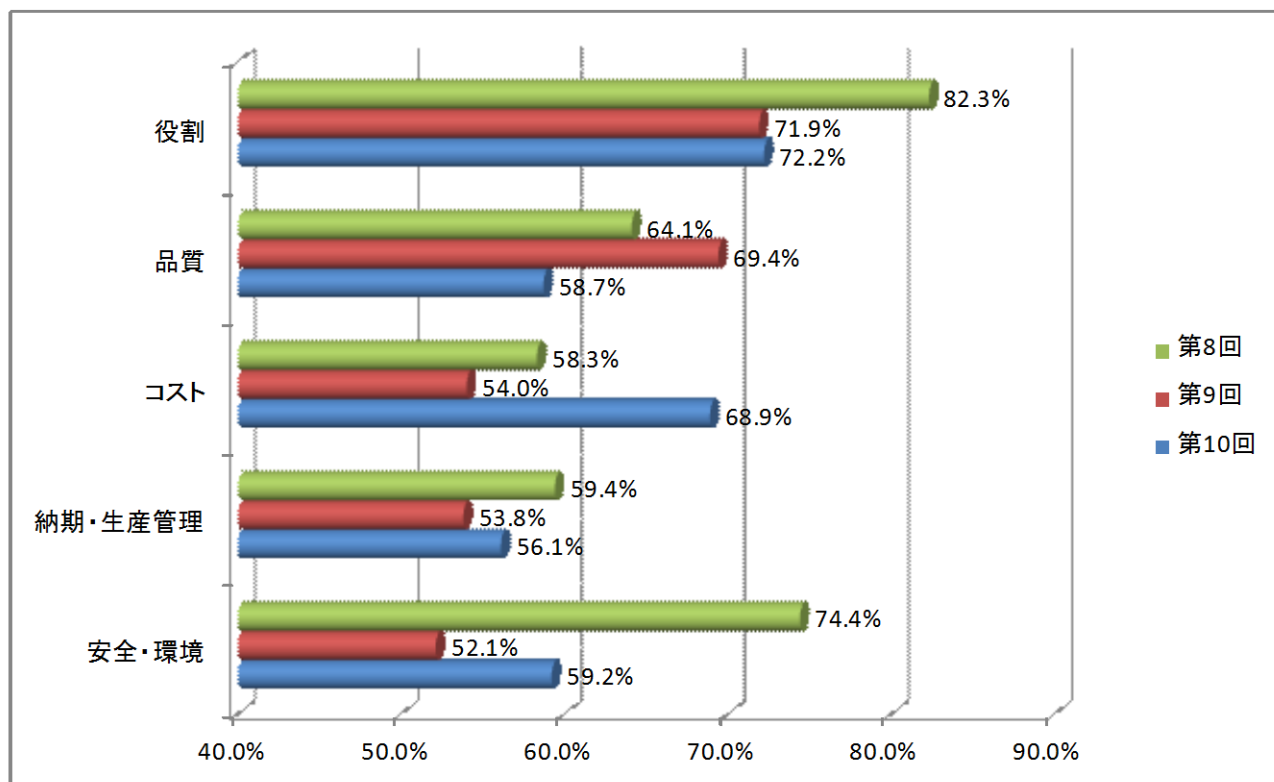
2級においても、1級と同様に、特定の分野に偏りがあるような配分（問題数、配点）をできるだけさける構成になっています。しかし、「品質」、「コスト」、「納期・生産管理」からの計算問題やミニケース問題は、択一問題に比べて解答するのに時間がかかる＝難易度が高い問題であるため、「品質」、「コスト」、「納期・生産管理」の配点が高くなっています。なお、第11回もまったく同じということはありませんが、この傾向は長い間続いていることは事実です。

また、「役割」、「安全・環境」は、配点こそ高くはありませんが、生産現場をあずかる責任者として現場での能力を総合的に発揮していただくための大切な分野であることには変わりありません。通信教育テキスト第1単位の「役割」から最後の第4単位の「安全・環境」まで、繰り返し読んで、一つひとつついでに学習してください。

分野	問題数	配点
■ 役割	8	10
■ 品質	11	22
■ コスト	14	37
■ 納期・生産管理	10	22
■ 安全・環境	7	9
計	50	100

②結果から見てきた弱点

・分野別得点率



・得点率が低い項目

分野	弱点項目
■役割	<p>●得点率 72.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部下のやる気を引き出す衛生要因、動機づけ要因 ・第一線監督者における日次の行動
■品質	<p>●得点率 58.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工程能力指数(Cp値)の計算と判断基準 ・品質改善の進め方 ・品質管理の手法 ・小集団活動による不良低減
■コスト	<p>●得点率 68.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メソッド面のロス ・設備生産性向上(設備総合効率)の計算 設備総合効率=時間稼働率×性能稼働率×良品率である ここで、時間稼働率=(負荷時間-停止時間)÷負荷時間 性能稼働率=速度稼働率×正味稼働率 速度稼働率=基準サイクルタイム÷実際サイクルタイム 正味稼働率=(出来高×実際サイクルタイム)÷(負荷時間-停止時間) を代入して、設備総合効率を求める公式を整理すると、 設備総合効率=基準サイクルタイム×出来高×良品率÷負荷時間となる たとえば、基準サイクルタイムは(設備総合効率×負荷時間)÷(出来高×良品率)である また、実際サイクルタイム=(負荷時間-停止時間)÷出来高である
■納期・生産管理	<p>●得点率 56.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産形態の3つの観点「製品仕様と受注確定度」、「ものの流し方」、「部品構成・工程」 ・需要予測(時系列分析による予測) ・在庫の区分、一般的な在庫管理方式(定期発注方式、定量発注方式) ・新製品立上がりと生産計画(ネットワーク手法、クリティカルパス) ・生産管理情報システムの主な機能(MRPシステム、生産スケジューリング、実績収集システムなど)
■安全・環境	<p>●得点率 59.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境法規制管理の5つの要求事項、環境影響の評価、環境管理体制

・弱点項目は、第9回と同じ！

「品質」では、工程能力指数(Cp値)の計算と判断基準がいま一つです。工程能力指数(Cp値)は、3級でも学習項目になっていますので、2級の方には100%正解していただきたい項目です。

また、例年、計算問題が多い「コスト」の得点率は、第10回においては皆さんの努力の成果が表れて飛躍的に良くなっています。ただし、第9回と同じく、設備生産性向上(設備総合効率)の計算は弱点項目の一つです。人と設備が密接に連携して動く現場において、第一線監督者として生産性向上を行うためには、設備生産性向上(設備総合効率)を正しく理解することが必要です。

一方、「納期・生産管理」と「安全・環境」は、例年と同様に得点率が低く、弱点項目も例年とほぼ同じです。上の表と、前の分野別得点率のグラフを参考にして、自分には何が不足しているのかを正確に整理・把握してマスターしなければ、合格点には届かないと思います。残念な結果に終わった方は、必ずバイブルであるテキストを熟読し、理解を確実にしましょう。